

IV－28 道路の快適性に関する基礎的研究

日本大学工学部土木工学科 正員 堀井雅史

1. はじめに

本研究は、道路の快適性とは何かを探るために住民に対するアンケート調査を行って、その評価構造を明らかにし、快適な道路空間が求められるであろう今後の道路整備のあり方についてその方向性を模索するものである。

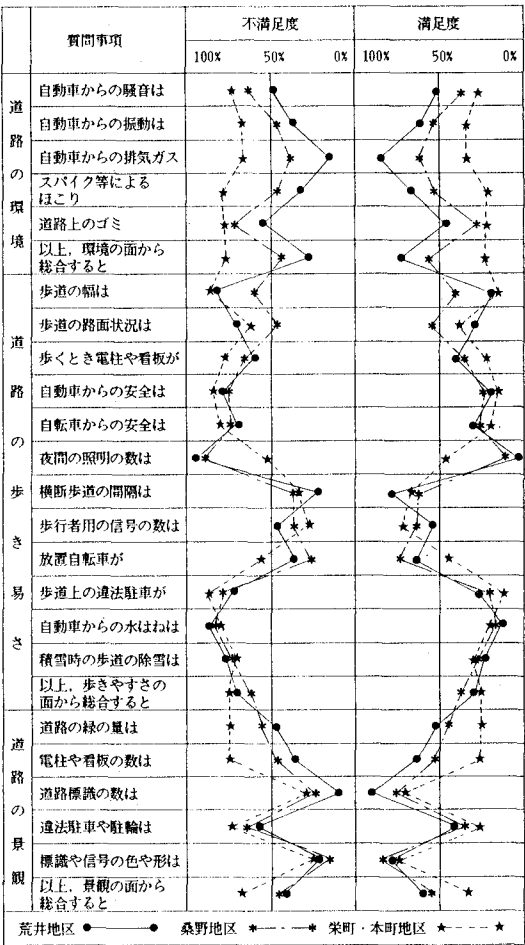
2. 調査および分析方法

本研究に関する調査は東北地方全県を対象として行われたものであり、本報告ではその中でも福島県に関する分析結果を示す。調査対象地区は郡山市とし、日交通量が①2車線合計1万台未満の県道仁井田郡山線沿いの荒井地区、②2車線合計1万台以上の国道49号沿いの桑野地区、③4車線合計2万台以上の国道4号沿いの栄町・本町地区の3箇所とし、有効サンプル数が100以上を目標としてアンケート調査を行った。この結果をもとに満足度の算出および数量化Ⅱ類によって、道路の快適性に関する住民の評価構造の構築を試みた。なおアンケート内容は、居住地域内の道路に関する評価、都心部での自動車運転時の道路に対する評価と歩行者側からの評価から構成されている。調査は平成元年11月10日～12月4日に実施し、訪問留置法によった。

3. 分析結果

調査対象地区ごとの居住地域内の道路に対する満足・不満足割合を示したのが図－1である。これによると道路環境に関しては、交通量が多い栄町・本町地区が全項目において不満の割合が高く、その他の地区はそれほどでもないが、道路上のゴミに対しては不満の割合が高い。道路の歩き易さに対する評価については、横断歩道の間隔、歩行者用信号の数、放置自転車以外の項目について不満の割合が50％を超えている。つまり、これらの地区においては歩道の整備状況があまり良くないといえる。次に道路景観に関しては、栄町・本町地区を除いて不満の割合が低く、道路標識の数や色や形に対する不満はあまりないようである。しかし、違法駐車や駐輪に関しては全地区において不満の割合が高い。同様に都心部の道路を自動車運転時から見た場合では、信号表示、道路標識、路面表示を除いては不満の割合が高く、全体的にあまり評価が良くない。また都心部道路の評価においては、居住地域内の道路の満足度評価と同様の傾向を示しているが、放置自転車に関しては都心部での不満の割合が増加している。

次に、以上までのアンケート結果に対して、数量



図－1 居住地域内の道路に対する住民評価

なお、本研究では図に示した項目で道路の快適性を表現しているが、その他の項目についても検討する必要があり、今後の課題である。また、本研究で得られた意識量と物理的指標との関係についても今後追求していくことが重要である。最後に、アンケートにご協力頂いた方々に感謝の意を表します。